



(題字 小黒千足 学長)

第361号
(平成7年1月号)



▲ 第26回富山大学寒中水泳大会
観衆から熱い声援を受ける水泳部員 (1月21日(土)本学プール)

目 次

年 頭 所 感

(小黒千足学長) 3

諸 会 議 4

学 事

◆ 平成7年度大学入試センター試験の実施 4

◆ 平成7年度富山大学学生募集要項(募集人員)の変更について 6

人 事 異 動 7

学内トピックス

◆ 第26回富山大学寒中水泳大会 7

学 内 諸 報

◆ 公務員採用試験に関する講演会を開催 8

◆ 平成6年度低温液化室主催学術講演会を開催 8

◆ 海外渡航者 9

職 員 消 息

◆ 新任者住所 9

◆ 訃 報 10

◆ 主 要 行 事 11

資 料

◆ 富山大学国際交流事業基金各種事業の募集要項 13



年頭所感

年頭のあいさつ

富山大学長 小黒千足



近来国立大学に対する要求は厳しく、また多様化しており、諸事困難さを増しております。そのような状況ではありますが、わが富山大学の将来のために、さらには健全な高等教育の達成のために、皆様のなお一層の御尽力をお願いして新年の挨拶に代えさせて戴きます。

新年おめでとうございます。ここに平成7年、1995年を迎え、21世紀までわずか5年を残すのみになりました。

顧みますと昭和24年に富山大学が発足して以来、本学はさまざまなかたちで成長してまいり、その足跡には目ざましいものがありました。しかしながら、21世紀に向けて本学がさらに発展するためには多くの課題が残されております。そして、それらを解決するには全教職員の努力を待つ以外にありません。



諸 会 議

第10回生涯学習教育研究センター準備委員会専門委員会

(1月13日)

(議 題)

- (1) 富山大学生涯学習教育研究センター(仮称)について
- (2) その他

第9回部局長懇談会(1月20日)

(議 題)

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

第5回大学院委員会(1月20日)

(審議事項)

- (1) 富山大学大学院学則の一部改正について
- (2) 富山大学研究生規則の制定について
- (3) 富山大学科目等履修生及び聴講生規則の制定について
- (4) 富山大学外国人留学生規則の制定について
- (5) 富山大学学生交流規則の制定について
- (6) その他

第9回評議会(1月20日)

(審議事項)

- (1) 富山大学学長候補者選挙管理委員会の設置について

(2) その他

第7回学生生活協議会(1月24日)

(審議事項)

- (1) 平成7年度入学生行事日程表(案)について
- (2) 第40回大学祭について
- (3) DMに関する学生5団体からの要求書について
- (4) その他

第6回生涯学習教育研究センター準備委員会(1月30日)

(議 題)

- (1) 富山大学生涯学習教育研究センター(仮称)について
- (2) 講演会及び懇談会の開催について
- (3) その他

第3回教務委員会(1月31日)

(審議事項)

- (1) 富山大学研究生規則(案)について
- (2) 富山大学科目等履修生及び聴講生規則(案)について
- (3) 富山大学学生交流規則(案)について
- (4) 富山大学外国人留学生規則(案)について
- (5) 既修得単位の取り扱いについて
- (6) その他

学 事

受験シーズンの幕開け

平成7年度大学入試センター試験の実施

—県内では、本学をはじめ4会場で実施—

共通一次学力試験に代わって、6回目の大学入学者選抜大学入試センター試験が去る1月14日(土)・15日(日)の両日全国一斉に行われました。全国の志願者は557,400人で共通一次学力試験以来最も多い志願者数となりました。

富山県内では、全国的な女子の大学進学率上昇傾向を

受け昨年より198人多い、6,372人の志願者が、本学をはじめ富山医科薬科大学、県立大学及び高岡法科大学4会場で実施されました。このうち本学は、4,722人の志願者が各学部の5試験場に別れて受験しました。

今年は、例年にない降雪がありましたが、降雪等関係

者の尽力により、2日間にわたる試験は支障なく予定ど
 でお実施されました。本学試験場受験状況は次のとおり
 です。



▲ 試験終了、安どの表情で帰路につく受験生

平成7年度大学入試センター試験富山大学試験場受験状況

期 日	試験教科	志願者数	受験者数	受験率	備 考
1月14日(土)	外国語	4,722人 (4,524)	4,560人 (4,331)	96.57% (95.73)	
	数学(A)	4,722 (4,524)	4,068 (3,928)	86.15 (86.83)	
	数学(B)	4,722 (4,524)	3,950 (3,763)	83.65 (83.18)	
	理科(A)	4,722 (4,524)	2,010 (1,742)	42.57 (38.51)	
1月15日(日)	理科(B)	4,722 (4,524)	1,881 (1,862)	39.83 (41.16)	
	国語	4,722 (4,524)	4,461 (4,251)	94.47 (93.97)	
	社会	4,722 (4,524)	4,163 (3,929)	88.16 (86.85)	
	理科(C)	4,722 (4,524)	1,593 (1,542)	33.74 (34.08)	
1教科・科目平均		4,722 (4,524)	3,336 (3,169)	70.65 (70.05)	

(注) ()内の数字は、平成6年度実績を示す。

平成7年度富山大学学生募集要項（募集人員）の変更について

本学における平成7年度の学生募集については、既に発表した学生募集要項のとおりですが人文学部、理学部及び工学部では、平成7年度から入学定員の改訂を計画しています。

この計画は、関係法令の制定及び政府予算の成立によって確定するもので、現在は未確定です。

なお、確定したことにより、あらためて入学者選抜は行わず、下記のとおり募集人員を変更して実施しますから注意してください。

記

1 募集人員

人文学部の募集人員「205人」を「195人」に、理学部の募集人員「240人」を「230人」に、工学部の募集人員「402人」を「392人」にそれぞれ変更します。

変更後における前期日程、後期日程別の募集人員は、次のとおりです。

学部・学科名	変更前の募集人員		変更後の募集人員		募集人員に含まれる特別選択の募集人員	
	前期日程	後期日程	前期日程	後期日程		
人文学部	人文学科	55	15	55	15	〔前期日程〕 推薦入学(6人), 帰国子女・社会人特別選抜(若干名)
	国際文化学科	30	10	30	10	〔前期日程〕 推薦入学(4人), 帰国子女・社会人特別選抜(若干名)
	言語文化学科	70	25	65	20	〔前期日程〕 推薦入学(8人), 帰国子女・社会人特別選抜(若干名)
	計	155	50	150	45	
理学部	数学科	46	7	45	7	〔前期日程〕 推薦入学(16人), 帰国子女特別選抜(若干名)
	物理学科	37	10	33	9	〔前期日程〕 帰国子女・社会人特別選抜(若干名)
	化学科	30	8	30	8	〔前期日程〕 帰国子女・社会人特別選抜(若干名)
	生物学科	33	7	32	6	〔前期日程〕 帰国子女・社会人特別選抜(若干名)
	地球科学科	27	5	25	5	〔前期日程〕 帰国子女・社会人特別選抜(若干名)
	生物圏環境科学科	25	5	25	5	〔前期日程〕 推薦入学(5人), 帰国子女・社会人特別選抜(若干名)
	計	198	42	190	40	
工学部	電子情報工学科	105	27	105	27	〔前期日程〕 推薦入学(19人)
	機械システム工学科	80	21	80	21	〔前期日程〕 推薦入学(15人)
	物質工学科	66	17	64	16	〔前期日程〕 推薦入学(12人)
	化学生物工学科	68	18	63	16	〔前期日程〕 推薦入学(12人)
	計	319	83	312	80	

2 入学者選抜方法

変更後の募集人員についての入学者選抜方法は、既に募集要項で発表したとおり行います。

3 注意事項

本件について、不明の点があれば80円切手をはり付けた返信用封筒等を同封のうえ、下記あて照会してください。

照会先：〒930 富山市五福3190

富山大学学生部入試課入学試験係 TEL 0764 (41) 1271 (代表)

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
採 用	7. 1. 4	岡田 佳恵		事務補佐員（教育学部）
	”	太田ときえ		” （ ” ）
	7. 1. 9	林 敏和		事務補佐員（附属図書館）
	”	青山 拓也		” （ ” ）
	”	松田 充子		” （ ” ）
	”	大久保 英		” （ ” ）
	7. 1. 10	松岡 弘二		事務補佐員（附属図書館）
	”	大岩満美子		” （ ” ）

学内トピックス

第26回富山大学寒中水泳大会 厳寒の1月、学生の熱気の中、敢行

去る1月21日(土)大寒中とは思えない好天に恵まれた中、富山大学水泳部恒例の寒中水泳大会が本学プールにおいて多くの学生・教職員が見守る中、午後2時から開催されました。連日の冷え込みでプールには厚さ5センチの水が張っておりましたが、午前中から水泳部員が氷を割るなどして、なんとか2コースを確保することができました。

浜谷学生部長の挨拶、水泳部主将の檄文読み上げの後、応援団のリーダー部、チアリーダー部及び吹奏楽部の応援の中、水温0.3度のプールに水泳部員がリレー方式で次々と飛び込み、観衆から熱い声援を受けておりました。

その後、各サークルの部員らが、趣向を凝らした格好で泳ぎ切るパフォーマンスを繰り広げ、大会を盛り上げておりました。

なお、同大会は富山大学の名物行事として毎年、テレビ、新聞等で報じられており、この日も多くの報道関係者が取材にきていました。



▲ 勇壮な応援団のリーダー部員

学 内 諸 報

来年度就職する学生

公務員採用試験に関する講演会を開催

本学の就職指導の一環として、去る1月25日(木)13時20分から経済学部講義棟201番教室で「公務員採用試験に関する講演会」が開催されました。



▲ 経済学部201番教室で講演を熱心に聴く学生

講演会には、昨今の民間企業への厳しい就職環境の現状から述べ220人の学生が出席しました。

講演に先立ち、浜谷学生部長から昨今の厳しい民間企業の就職環境の現状と、それを反映した公務員志望者の増加に伴う状況等についての説明と受験に向けての激励等が行われました。

次いで、人事院中部事務局第二課 大鹿 茂専門官から「国家公務員採用Ⅰ種・Ⅱ種試験等の概要について」と題し、受験から採用までのそれぞれの段階における対応等のポイントを含めて講演が行われた後、富山県人事委員会任用課 梅原 敏課長代理から「富山県職員採用試験等の概要について」と題し、富山県及び市町村職員の採用制度を含めて講演が行われました。

それぞれの講演の後、学生からは活発な質問等があり時間を超えて質疑応答が行われました。

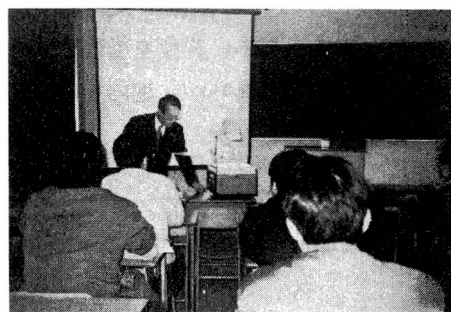
平成6年度低温液化室主催学術講演会を開催

去る2月2日(木)理学部2号館7番教室において、広島大学総合科学部教授藤井博信先生を講師に迎え、本学学生教職員を対象として低温液化室主催の学術講演会が開催されました。先生は「近藤格子化合物の示すエネルギーギャップの形成」という題目で講演され、本学の学生教職員のみならず富山県立大学からも藤井先生のお話に興味を院生・教官が参加し、総勢約50名が熱心に聴講しました。

藤井先生は、エネルギーギャップを形成する近藤格子化合物の典型物質としてまず $CeNiSn$ という物質をあげて話を始めました。この物質は藤井先生のグループが初めて単結晶を作成し、彼らによって電気抵抗、比熱、熱電能、磁化、帯磁率、NMR等、極めて総合的に研究されたものであり、今も研究されているものです。特に今回注目されたお話しは、エネルギーギャップを形成する特異な近藤格子化合物の試料を良くしていくと、その電気抵抗の振舞いは半導体的性質から金属的性質に変わっていくことを示したことです。その根拠として、EPMAによる試料チェックをしたうえで、比熱のデータ、及び、

驚くべき帯磁率のデータを示されました。普通このように大きくない帯磁率を持つ場合、低温側に立ち上がりが出てしまうものですが、藤井先生達は試料の純良化によってほとんど完全にこの立ち上がりを消してしまっていた点が注目されました。

同じように $CeNiSn$ の後に発見されたエネルギーギャップを形成する $CeRhSb$ という物質及び $UNiSn$ という物質についても藤井先生のグループでなされた先端的なお仕事の話が紹介されました。講演中から活発な質問が出され予定より30分以上も超過した盛況な講演会でした。



▲ 藤井先生による熱心な講演を聴く学生、教職員

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
海 外 出 張	経済学部	教 授	滝川敏明	アメリカ合衆国 連 合 王 国 ド イ ツ	「持株会社に対する法則制について」の調査	7. 1. 7 } 7. 1. 22
海 外 研 修	教育学部	助教授	室橋春光	ニュージーランド	ニュージーランド（クライストチャーチ）における障害児者の教育・福祉の調査・研究	7. 1. 28 } 7. 2. 9

職 員 消 息

<新任者住所>

学 生 部

学生部次長 飼 牛 俊一郎

教 育 学 部

事務補佐員 岡 田 佳 恵

事務補佐員 太 田 と ぎ え



訃 報

富山大学名誉教授 渡邊義一氏逝去



本学名誉教授渡邊義一氏が、平成7年1月13日に逝去（享年89歳）されました。

同氏は、昭和6年3月東北帝国大学理学部数学科を卒業後、同年同月富山県師範学校教諭心得、同年5月富山師範学校教諭、同9年3月富山高等学校教授、同24年5月同校が富山大学に包括されたことに伴い、同年6月本学文理学部助教授となり、同33年2月同教授に昇任し、同46年3月に停年により退官されました。

この間、同氏は昭和38年6月から同40年5月まで評議員として、また、同43年4月から同45年3月まで教養部長並びに評議員として、本学の管理運営に参画され、大学の発展に多大な貢献をされました。

とくに、教養部長在任中の前後は学園紛争の最も厳しい状況下であり、学長を援け、事態の正常化に向けて精力的に対処し、学園の秩序の正常化へ大きく貢献する一方、教養部がもつ特殊な位置下での紛争処理に日夜心血を注ぎ、その解決に努力されました。

これらの功績により、昭和46年4月富山大学名誉教授の称号が授与されました。

さらに、同氏は、退官後も引き続き金沢経済大学教授として昭和56年3月まで教鞭をとられ、この間、同48年4月から同53年4月まで同大学学生部長をとめられるなど、同大学においても多大な貢献をされたことにより、同56年4月金沢経済大学から名誉教授の称号

が授与されました。

研究面においては、主として微分幾何学の分野の研究に力を注がれました。微分可能多様体とその上の点における接ベクトルについて解説した「多様体上のベクトル」の論文においては、これらの概念の起源と発達の経過とを手際よく述べた後、シュバレーによる多様体の定義を紹介し、かつ同人が作った例によって読者の理解を深め、接ベクトルの定義をシュバレー流に導入してそれが古典的定義に優っていることを説明しています。

さらに、学会活動においても、日本数学教育学会理事（昭和49年8月から同51年7月まで）、富山県教育数学会会長（昭和27年4月から昭和57年3月まで）をつとめ、また昭和27年8月開催の日本数学教育学会全国大会（富山県会場）準備委員長、数次にわたる北陸4県数学教育学会準備委員長をつとめられ、昭和43年8月には、日本数学教育学会の表彰を受けられました。

また、同氏は、永年にわたり、終始熱意と恩情をもって生徒並びに学生の教育と指導にあたり、特に担当の数学の面から、専門領域での適切な指導により有能な多くの人材を育成し、教育界に送り出されました。

これらの長年の功績により、昭和51年11月に勲二等瑞宝章が授与されました。

ここに、同氏の御功績を偲び顕彰するとともに、御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

主 要 行 事

本 部

- 1月4日 仕事始め
- 5～6日 人事関係事項説明聴取
- 6日 平成7年度大学入試センター試験
監督者説明会
保健管理センター委員会
- 7～11日 在来生合宿研修（志賀高原）
- 13日 平成7・8年度建設工事の一般競争（指名競争）参加資格審査に係る説明会（名古屋大学）
- 14～15日 平成7年度大学入学者選抜大学入試センター試験
- 17日 第10回部課長会議
- 18日 人文学部推薦入学試験
- 19日 第9回教養教育委員会企画専門委員会
- 23日～2月1日 平成7年度一般選抜・私費外国人留学生選抜入学願書受付（黒田講堂）
- 21日 寒中水泳
- 25日 組織の廃止転換・再編成等に係る検討状況等について（文部省）
公務員採用試験に関する講演会
言語表現科目研修会
人文学部推薦入学試験（追試験）
- 26日 国際交流委員会留学生部会
留学生会館運営委員会
- 28～29日 スキー講習会（共済組合）
- 30日 第4回公開講座委員会
会計係長会議
- 31日 第5回国際交流委員会学術交流部会
第3回教養教育委員会管理運営専門委員会

人 文 学 部

- 1月11日 教授会
教授会（人事）
大学院人文科学研究科委員会
眞率会総会
- 14～15日 平成7年度大学入学者選抜大学入試センター試験
- 18日 学部公開講座委員会
学部入学者選抜方法検討委員会

- 19日 人事に関する検討委員会
- 23日 学部予算委員会
- 25日 教授会
- 27日 学部教務委員会

教 育 学 部

- 1月9日 附属小学校、附属中学校及び附属養護学校第3学期始業式
- 10日 学部将来計画委員会小委員会
- 11日 附属幼稚園第3学期始業式
- 12日 学部学生生活委員会
- 14～15日 平成7年度大学入学者選抜大学入試センター試験
- 17日 学部将来計画委員会小委員会
- 18日 学部教育実習検討委員会
人事教授会
- 18～24日 平成7年度附属小学校及び附属中学校入学願書受付
- 23日 附属学校運営委員会
- 25日 学部教務委員会
教授会
人事教授会
- 26日 学部長候補者選挙委員会
- 27日 学部就職指導委員会

経 済 学 部

- 1月9日 学部教務委員会
各種委員選考委員会
- 10日 授業再開
- 11日 人事教授会
教授会
学部図書委員会
- 12日 学部留学生委員会小委員会（持ち回り）
- 14～15日 平成7年度大学入学者選抜大学入試センター試験
- 17日 大学院経済学研究科委員会小委員会
- 18日 博士課程設置検討委員会
大学院経済学研究科委員会
日本海経済研究所運営委員会

- 19日 学部入学方法検討委員会
20日 財務委員会
23日 学部教務委員会
25日 人事教授会
教授会

理 学 部

- 1月7日 国立4大学（北信越地区）理学部長懇談会
（当番校：信州大学）
11日 学科長会議
学部自己点検評価委員会
大学院設置構想推進委員会
真率会総会
14～15日 平成7年度大学入学者選抜大学入試センター
試験
18日 教授会
大学院理学研究科委員会
人事教授会
理学部長候補者選挙管理委員会
20日 理学部長候補者選挙管理委員会
理学部案内編纂委員会
25日 教官会議

工 学 部

- 1月11日 工学部改革推進プロジェクト委員会
14～15日 平成7年度大学入学者選抜大学入試センター
試験
24日 学部運営委員会
25日 教授会
研究科委員会
博士後期課程委員会
26日 学部施設整備委員会
31日 学部国際交流委員会

地域共同研究センター

- 1月17日 地域共同研究センター運営委員会
19日 経営者・研究者交流会実行委員会
23日 企業見学と産学交流会（㈱富山富士通）
27日 地域共同研究センター講演会

資

料

平成7年度

富山大学国際交流事業基金各種事業の募集要項

平成7年度に実施する富山大学国際交流事業基金の各種事業が次のとおり決定しましたので、応募されるようお知らせします。

第1種海外派遣事業（A）

遼寧大学への派遣

1 派遣対象者及び予定者数

本学教官 1人

2 派遣期間 3ヶ月以内

3 出発の時期 平成7年4月1日から平成8年3月31日までの間、遼寧大学が受入れ可能な時期

4 支給経費

(1) 国内旅費

本学から国際空港までの間の往復運賃（鉄道賃、日当及び宿泊料）

(2) 航空賃

国際空港を起点とした往復航空賃（エコノミークラス以下のできるだけ低廉となる運賃を利用するものとする。）

5 提出期限 平成7年3月3日（金）

第1種海外派遣事業（B）

1 派遣対象者及び予定者数

本学の教職員 3人

2 派遣期間 原則として、2週間以内

3 出発の時期 平成7年4月1日から平成8年3月31日までの間

4 支給経費

支給額は、30万円を限度

(1) 国内旅費

本学から国際空港までの間の往復運賃（鉄道賃、日当及び宿泊料）

(2) 航空賃

国際空港を起点とした往復航空賃（エコノミークラス以下のできるだけ低廉となる運賃を利用するものとする。）

(3) 滞在費

文部省在外研究員規程で定める日当、宿泊料 支度料は支給しない。

5 提出期限 平成7年3月3日（金）

第2種外国人研究者の招へい事業（A）

1 招へい対象者及び予定者数

遼寧大学の研究者 1人

2 招へい期間 3ヶ月以内

3 招へいの時期 平成7年4月1日から平成8年3月31日までの間、本学に受入れ可能な時期

4 支給経費

(1) 国内旅費

本邦の出入港を起点とした本学までの間の往復旅費（鉄道賃、日当及び宿泊料）

(2) 滞在費

滞在費は、1日@5,000円を本学到着の日から本学出発日の前日までの日数に応じて支給

(3) 国内視察旅行等の旅費

支給総額は、5万円を限度

5 提出期限 平成7年3月3日(金)

第2種外国人研究者の招へい事業(B)

1 招へい対象者及び予定者数

(1) 招へい対象者

イ 我が国との間に国交関係のある国の国籍を有する者

ロ 日本国籍を有する者で、外国におおむね10年以上在住し、現にその国の学界で活躍している者

(2) 予定者数 若干人

2 招へい期間 5日間以内

3 招へい時期 平成7年4月1日から平成8年3月31日までの間

4 支給経費

(1) 旅費

日本国内の滞在地から本学までの間の往復旅費(鉄道賃、車賃、船賃、航空賃)

(2) 滞在費

滞在費は、1日@16,900円

ただし、本学宿泊施設を利用する場合 1日@11,200円

5 提出期限 前期(4月~9月) 平成7年3月3日(金)

後期(10月~3月) 平成7年8月31日(木)

第3種外国留学への奨学事業

1 応募資格

(1) 本学に在籍する学生(研究生、聴講生等を除く。)

(2) 学業成績が優秀

(3) 留学期間 3ヶ月以上

2 支給学資金額

学資金 10万円を限度

3 募集人員 若干人

4 提出期限 平成7年5月12日(金)

第3種外国留学生への奨学事業

1 応募資格

本学に在籍する自費外国人留学生

(1) 学資の支弁が困難

(2) 学業成績が優秀

(3) 民間団体等から奨学金の支給を受けていない者

2 支給学資金額

学資金 月額1万円

3 支給期間

平成7年4月1日から平成8年3月31日までの1年間

4 募集人員 12人以内

5 提出期限 平成7年5月12日(金)

(庶務部庶務課)

平成7年春季全国火災予防運動実施

1. 目 的

この運動は、火災が発生しやすい気候となる時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図り、もって火災の発生を防止し、死傷事故や財産の損失を防ぐことを目的とする。

2. 統一標語

『安心の暮らしの中心火の用心』

3. 実施期間

平成7年3月1日（水）から3月7日（火）までの7日間

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3 1 9 0
印 刷 所 あげぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電 話 (2 4) 1 7 5 5 (代)